

福島県の積算線量

一転測定継続へ

文科相「安心・安全」強調

文部科学省が福島県内で続けてきた積算線量の測定を終了すると発表した問題で、平野博文文科相は15日の閣議後会見で「即、取りやめではなく、当面、住民の安心、安全の観点から考えたい」と述べ、一転して測定を継続する考えを示した。

文科省は14日、モニタリングの簡略化、効率化を理由に積算線量の測定を終了すると発表した。文科省幹部によると、測定中止は文科相に伝わっておらず、終

了を伝える15日付の新聞記事をみて当面の継続を表明したという。ただし、現在、週1回行っている測定結果の公表方法については見直しも検討するという。

積算線量は、昨年3月23

日以降、警戒区域外の屋外

9カ所に設置した簡易型線

量計の1時間あたりの測定

結果を足して求める。測定

結果は、職員が週に1回、

現地に出向き、読み取って

いる。住民の健康管理や避

難・帰還対策に具体的に役

立てるものではないが、がんのリスクが高まる1000マイクロベルトといった積算レベルを比較できる目安になっていた。

しかし、文科省は3月までに、福島県内545カ所に新たな測定機器を設置し、自動的に数値が読み取れるようにした。積算線量はウェブ上で1日ごとに更新されるようになり、14日、従来の測定を終了すると発表した。ただ、ウェブ上の数値は今年4月以降分のみで、継続性がなく、測定場所も異なる。

文科省は「測定地点が増えて広く把握でき、大きな支障はないと判断した。今後、終了するか、どう公表するか専門家にも相談して検討する」と話した。